

G20 開発作業部会(DWG)
持続可能な開発に向けた連結性強化のための
質の高いインフラの主要要素
(骨子)

1. 持続可能な開発のための重要な推進力としてのインフラストラクチャー

1. 1 インフラは、経済的な繁栄、持続可能な開発、包摂的な成長のための重要な推進力である。
1. 2 インフラの連結性は、持続可能な開発を達成するために必要不可欠な要素の一つである。
1. 3 インフラは、ジェンダー平等のための鍵でもある。

2. インフラ・ファイナンスの不足

2. 1 インフラは、持続可能な開発及び包括的な成長のために重要であるが、ファイナンスの膨大な不足が整備の妨げとなってきた。
2. 2 官、民及び多国間機関等の様々な資金源からのファイナンスの拡大及び統合、並びに国内資金動員は、インフラ・ファイナンスの不足に効果的に対応する上で決定的に重要である。

3. インフラの質の重要性

3. 1 インフラ投資の量が重要であるが、質と量は相互に強化し合うものであり、持続可能な開発に効果的に寄与するためには、インフラ投資の質も確保される必要がある。
3. 2 質の高いインフラ投資に関する信頼できる一貫したデータ及びその分析は、証拠に基づく意思決定及び政策モニタリングを支援する鍵である。
3. 3 このことに留意し、DWG は、以下の要素を策定した。同要素は、インフラ作業部会をフォーカルポイントとして G20 財務トラックで策定される質の高いインフラ投資に関する原則へのインプットとなる。

4. 質の高いインフラ投資に関する原則への DWG のインプット要素

4. 1 持続可能な開発

持続可能な開発は、インフラ投資の中核とされるべき。インフラ投資は、国の経済及び開発戦略等に沿ったものであるべき。

4. 2 安全性及び強靱性

インフラは、安全で、かつ、自然災害等に対し、そのライフサイクルを通じて強靱かつ適応可能なものであるべき。

4. 3 経済性

インフラ投資は、市場の需要を考慮し、経済的であるべき。経済性等は、初期費用のみならず、運用、維持、その他の費用を含むライフサイクルコストから見て検討されるべき。

4. 4 社会配慮

インフラ投資は、人権及び適用可能な国際労働基準を尊重するとともに、包摂的であつ、ジェンダー及び障害者のニーズに対応したものであるべき。インフラ・プロジェクトの計画・開発及び運用において社会的影響評価が考慮されるべき。

4. 5 環境配慮

生態系、生物多様性、気候、天候及び天然資源の利用に対するインパクトへの配慮は、インフラ・プロジェクトの計画、開発及び運用に組み込まれるべき。インフラ・プロジェクトは、国毎の事情に留意しつつ、国家戦略、実施を決定した国については自国が決定する貢献、及び長期的な低排出戦略への移行に沿ったものであるべき。

4. 6 運用の開放性

インフラは、ヒト、モノ及びカネの移動並びにサービス及び知識へのアクセスを促す非排他的な形で、開放性があり、アクセス可能であり、現地の住民、共同体及び地域に幅広く裨益するものであるべき。

4. 7 ガバナンス

インフラ投資は、透明であるべきで、現地の共同体及び利用者を含む利害関係者に対する説明責任がある。インフラ投資は、基礎的及びその他の開発ニーズを満たす能力を確保するため、借入国の金融、財政、債務の持続可能性を支えるものであるべき。借り手及び貸し手の双方が透明で持続可能な金融慣行を推進する必要がある。

5. フォローアップ

5. 1 G20 は、質の高いインフラ投資に関する原則に沿って質の高いインフラ投資を推進する。G20 は、必要かつ適切な場合には、途上国の能力構築のための支援を提供し、また、インフラの連結性等に関する更なる協力を模索する。

5. 2 我々は、グッドプラクティスの解説書の提供等を通じ、質の高いインフラ投資に関する共通理解を推進するため、非 G20 メンバー国に働きかけるべく OECD, MDBs といった国際機関と協力する。

(了)